

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671700270		
法人名	医療法人 中西内科クリニック		
事業所名	グループホーム美郷		
所在地	徳島県吉野川市美郷毛無93-2		
自己評価作成日	平成23年7月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階
訪問調査日	平成23年9月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の周辺には、山や川等の豊かな自然が残っており、初夏には蛍が飛び交うなど、豊かな環境に位置している。地域で開催される季節ごとの行事に参加したり、良い気候の日には散歩を楽しんだりして、地域の方々との交流・友好を深め、地域にとけ込むよう支援している。また、利用者が事業所で自由に健康で楽しく過ごすことができるように支援している。医療機関と連携を図り、24時間の対応が可能となっている。健康管理を行い、安心した生活を送ることができるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の周囲には自然が多く、四季の草花や木々に触れられる環境に位置している。運営推進会議を通して、地域の方々と積極的に交流し、地域密着型サービスの理解促進を図っている。事業所全体が、暖かい雰囲気になっており、利用者の安心に繋がっている。また、利用者一人ひとりにあった役割を担ってもらい、日ごろの生活が楽しく張り合いのあるものになるよう工夫を行っている。職員が中心となって、管理者とともにより良いケアを目指し取り組んでいる。協力医療機関との連携により健康管理に努め、緊急時の協力体制を整備している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着サービスの理念や役割について職員と共に検証してつくり、毎日の仕事始めに職員一同で理念を唱和している。またスタッフルームに掲示し、日々の実践に反映できるよう取り組んでいる。	毎朝の申し送り時に理念を唱和し確認している。些細な気づきなどについて話しあい、実践に向け取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の学校に運動会に参加したり、近隣への散歩した時に声かけをして、地域の方と交流している。	小学校の運動会や地域のボランティアによる阿波踊りや敬老会、誕生会等に参加するなどして、地域の方と触れあう機会を設けている。また、朝夕の散歩時に、地域住民と挨拶を交わすなどして交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践内容を踏まえ、人材育成の貢献として実習生の受け入れを行っている。またグループホーム便りを作成し広報活動に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を行い、事業所の取り組みや、行事報告している。意見等があれば職員間で話し合い、事業所で楽しく・有意義に生活できるよう取り組んでいる。	運営推進会議には、家族や自治会長、小学校長、市職員等の参加があり、事業所の取り組みを知ってもらう機会となっている。意見や要望を出してもらって、サービスの質の向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所へ連携をとり、協力関係を築くよう取り組んでいる。	日ごろから、市職員と連絡を密にとり、相談の機会や助言を得ている。密に協力関係を構築するよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、身体拘束についての知識を高めている。また虐待についての研修を行い事業所内での発生防止に努めている。解錠については時間や人員の状況に応じて対応している。	毎月、身体拘束委員会を開催し、身体拘束をしないケアについて確認するなどして正しい理解や啓発に努めている。また、日ごろのケアの実態調査や見直しにも取り組んでいる。職員は、利用者一人ひとりの行動把握に努め、利用者が外出を希望しているときには、ともに散歩に出かけるなどの工夫を行うことで利用者の自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内において虐待関連法についての研修を行い、防止に努めている。高齢者の身体状況をよく観察・把握し虐待がないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内において権利擁護に関する制度を学び、必要時に活用できるような体制をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約・退居解約時には十分な説明を行い、不安のないように努めている。また改訂時には家族に連絡し、理解・納得が得られるように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・家族の面会時に意見を聞き、希望があれば反映するようにしている。毎月の家族への手紙において、意見等を願っている。また意見箱を設置し、意見や不満・要望を記入できるよう配慮している。	家族会や運営推進会議、美郷便りなどを活用し意見等を把握している。また、意見箱を設置したり、家族の来訪時に話を聞いたりして、利用者や家族から意見や要望を引き出すよう努めている。出された意見は可能な限り運営に反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見・提案があれば毎日の申し送り・カンファレンス等で話し合っている。また必要に応じて個別に面談している。	管理者は、つねに職員の意見を聞くよう心がけ、出され意見や提案は運営面に取り入れている。また、月2回の訪問診療時に代表者と会う機会がありサービスに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況・疲労やストレスの程度を把握し、全職員が向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人・事業所内研修、外部研修を通して一人ひとりの実力を伸ばし、意欲的に働くことができるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡協議会を通して関連事業所と交流を持ち、勉強会を通じてサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者が困っていれば相談にのり安心して生活ができるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が望んでいること・困っていることを聞き良い関係づくりができるよう、また不安無くサービスが受けることができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人・家族と話し合い、意向をくみ取り、必要とするサービスを検討し提供ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と共に料理・野菜作り・昔の話・手芸等を行い事業所で楽しく生活できるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活や季節ごとの行事等の報告を行っている。また、家族の意見を伺い、本人と家族が良い関係を築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人・家族の希望に応じて継続的な良い関係を維持できるよう努めている。また、友人や近所の方の面会時には楽しい時間が過ごせるように支援している。	友人や知人の来訪時には、部屋にお茶を出している。気軽に来てもらえるよう雰囲気づくりに留意している。また、家族の協力のもと墓参りに出かけたり、来訪の少ない利用者には、電話や状況を報告するなどしてこれまでの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が仲良く支えながら生活できるよう、また、一人きりにならないよう職員が話しの輪に入ったり、聞いたりしている。一緒に行事等に参加し、楽しんでいただけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移った利用者に面会するなど、関係を断ち切らない付き合いをするように取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全職員が一人ひとりが希望する暮らしや意向を把握するよう努め、本人の表情をよく観察し、意思疎通が困難な方においては家族から情報を得て希望に応えられるようにしている。	日ごろの行動や会話から、利用者の思いや意向を把握するよう努めている。また、家族からも話を聞いており、本人本位に検討し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活暦・生活環境等の把握に努め、サービスに反映し、ホームでの生活が有意義で楽しくなるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスで利用者の1日の過ごし方・心身の状態等を全職員で把握し日々の支援が有効に活用できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンス・申し送り等によりその人にあったケアを検討している。また、家族の希望・情報を元にその時に必要とされる介護計画を作成している。	本人や家族を交えて担当者会議を開催し、意見や要望を反映した介護計画書を作成している。また、利用者の状態に応じて、アセスメントやモニタリングを繰り返し行い、より良い暮らしの実現に向けて見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの個別記録を作成し日々の身体状況を記録して全職員で情報を共有し、実践や計画のみなおしに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望・要望に応じ通院や送迎等の必要な支援が行えるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや教育機関等と協力しながら豊かで楽しい暮らしができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体医療機関による24時間対応可能な医療体制を行っている。必要に応じて直接医師から説明をもらっている。また往診・受診が受けられるように支援している。	利用者全員や家族が協力医療機関の受診を希望している。月2回の訪問診療と週3回の訪問看護を受けている。また、必要に応じ受診を行っている。協力医療機関と密に連携を図って支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体の医療法人の看護師が定期的に来訪して入居者の不安や・身体状況の相談や助言を行って持っている。変化に気づいた時は看護師に報告し、適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者の情報を提供し家族・本人が安心して治療及び早期退院ができるよう支援している。また、お見舞いに行き安心して治療が受けられるように取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関する指針を定め、事業所が対応できるケアについて説明している。	入居時に、本人や家族に終末期の指針を説明している。やむを得ず重度化に至った場合は、事業所の対応できるケアについて、主治医の判断をもとに本人や家族と話しあっている。今までに看取りを行ったことはないが、週3回の看護師の来訪時に相談や学習等を行って今後に備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所での急変事・事故発生時の対応についての研修を行っている。また、対応マニュアルを掲示して実践できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域消防団の協力を得て消防・防災訓練を全職員及び入居者で行い避難方法の習得に努めている。また運営推進会議等で地域の方に参加協力をお願いしている。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施している。隣接の事業所と協力して食料等を備蓄している。各居室の前には、緊急時に迅速な判断ができるよう、利用者一人ひとりの状態等を記した表示を行うなどの工夫を行っている。しかし、立地条件に考慮した避難訓練の実施や災害時に地域の協力を得るための具体的な取り組みが十分ではない。	事業所の立地条件等に考慮し、事業所内での研修や会議、訓練等を重ねられたい。また、地域住民の協力を十分に得られるよう話しあったり、避難場所の確認を行ったりして、協力体制の構築に努められたい。

自己	外部	項目	1F	
			自己評価 実践状況	外部評価 実践状況
			外部評価 次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーを傷つけないような言葉かけや、プライバシーを損ねない対応やケアを実践できるよう取り組んでいる。	利用者一人ひとりの人格を尊重して、さりげない言葉かけや対応をしている。年1回、管理者がプライバシーに関する研修会を受講し、申し送り時や職員会議で話しあって、日々の実践に活かしている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が困難な利用者の表情を読み取り、また、難聴の方には筆談したり・ゆっくり伺う事により自己決定できるよう取り組んでいる。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のタイムスケジュールはあるが、利用者本人のペース・コンディション等の様子を見ながら、本人が望んでいる暮らしができるように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の衣類・化粧品については希望にそって行っている。理容については2ヶ月に一度の出張理容にて本人の望む髪型ができるように支援している。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員が同じテーブルを囲み楽しく食事ができるよう家庭的な雰囲気づくりを行っている。また利用者と一緒に野菜を採りに行ったり配膳等が行えるよう取り組んでいる。	利用者一人ひとりの状態に応じた味つけや食事形態等に工夫している。また、利用者と職員は、菜園の野菜の収穫や片づけ等をもに行っている。利用者と職員が同じ食卓を囲み、食事が楽しい時間となるよう支援している。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立により、調理を行い必要な栄養が十分摂取できるようにしている。また、その人の身体状態に合わせた調理工夫・水分摂取をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりに合った口腔ケアを行い汚れや臭いの無いように支援を行っている。また口腔内清潔に努め誤嚥性肺炎の防止に努めている。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 1F 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の自尊心を傷つけないように、排泄パターンを観察チェック記録し全職員で共有し、定期的にトイレ誘導・見守りを行い自立した排泄ができるよう支援している。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりに応じた支援に努めている。夜間は1名のポータブル使用者を除いてトイレ誘導の声かけを行っている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維性に富む新鮮な野菜、果物、及び水分補給を行っている。個々の生活リズムに合わせて定期的に排泄誘導すると共に、腹部マッサージを行っている。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望に応じてゆったり、くつろいで入浴ができるよう支援している。また、本人の希望により毎日の入浴が行えるような体制になっている。	基本的には午後からの入浴となっているが、利用者の希望する時間帯に応じて、毎日入浴できるようにしている。身体的事情等により入浴できない利用者には清拭を行っている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	テレビ観賞・レクリエーション・散歩等自由な時間をゆったりと過ごしていただき、夜間十分睡眠がとれるよう支援している。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、内容が把握できるようにしている。薬の変更時は主治医・看護師からそのつど説明を受け、誤嚥が無いように努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの能力に応じた役割を担ってもらい職員と共に楽しんで清掃や花の水やり・炊事の片付け等が行えるよう支援している。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩や、家族の協力を得て一時帰宅したり、地域の季節ごとの行事への参加及び日用品の購入等の外出の機会をつくり支援している。	毎日2回の散歩を日課としており、利用者全員が参加できるよう支援している。また、小学校の運動会や花見、外食、買い物等、家族の協力のもと墓参り等に出かけている。利用者に喜んでもらえるよう積極的に取り組んでいる。

自己	外部	項目	1F		
			自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持については家族と相談し、本人の安心感や満足のためお金を持っている方もいる。買い物に行く時は支払いができるような工夫をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話をしたりFAX、また手紙を出したり等をして家族や友人との関係が続くように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンで光を遮断したり、冷暖の管理をして快適に生活できるようにしている。また建物の近くを流れる清流・四季折々の山々を眺めたり、壁画等で季節感を出しゆったり落ち着いた暮らせるよう工夫している。	共用空間はガラス張りである、清流や木々の緑が眺められ、四季の移ろいが感じられる。居間にはソファを設置しており、台所の音や匂いが感じられる構造となっている。利用者は、フロアに自然と集まってきており、生活感のあふれる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	植木・テレビやテーブルセット等を置き自由にテレビを見たり、家族や他の入居者と談話したりくつろげるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使い慣れた家具、布団などを持ち込み、その人にあった居心地の良い居室づくりができるよう工夫している。	居室には、使い慣れた家具やテレビ、布団等を持ち込んでもらっている。また、位牌を祀られている方もおり、その人らしい生活を送れるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリー仕様となっており、心身に心配な方や車椅子の方も安心して利用できるよう、また、トイレ・入浴が安心して利用できる生活環境となっている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で理念を毎日唱和することで実践に向けた取り組みを行っている。また、スタッフルームにに掲示し、日々の実践に反映できるように取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	皆で一緒に支え合いながら、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう支援している。また地域との関係性強化を大切に交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践内容を踏まえ、人材育成の貢献として実習生の受け入れを行っている。またグループホーム便りを作成し広報活動に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を行い、事業所の取り組みや、行事報告している。意見等があれば職員間で話し合い、事業所で楽しく・有意義に生活できるよう取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所へ連携をとり、協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、身体拘束についての知識を高めている。また虐待についての研修を行い事業所内での発生防止に努めている。解錠については時間や人員の状況に応じて対応している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の申し送りで高齢者に対する言葉及び暴力等の虐待がないように留意している。また高齢者の心身の状態をよく観察し、虐待がないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内において権利擁護に関する制度を学び、必要時に活用できるような体制をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約・退居解約時には十分な説明を行い、不安のないように努めている。また改訂時には家族に連絡し、理解・納得が得られるように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には手紙や来訪時に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。出された意見や要望等はミーティングで話し合い、反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や希望などがあれば話し合い、また話しきれない部分については、個別に面談している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況・疲労やストレスの程度を把握し、全職員が向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人・事業所内研修、外部研修を通して一人ひとりの実力を伸ばし、意欲的に働くことができるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡協議会を通して関連事業所と交流を持ち、勉強会を通じてサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者からゆっくり話しを聞き、本人にとって一番いいことは何か、どんな支援をしたらいいかを職員間で話し合い、良い関係づくりができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていること・要望を聞き事業所としてどのような対応ができるか、話し合い良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、家族や本人の状況や要望を確認し、支援の相談をし必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや根本にある苦しみ、不安、喜びなどを知ることに努め、暮らしの中で分かち合い、共に支えあえる関係づくりを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や行事等の報告を行っている。来訪時は本人・家族が良い関係が築けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人・家族の希望に応じて継続的な良い関係を維持できるよう努めている。また、友人や近所の方の面会時には楽しい時間が過ごせるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を、全職員が情報を共有している。また、心身の状態や気分、感情で利用者同士の関係が変化することもあるため注意深く見守るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られた場合でも、これまでの暮らしの継続性が損なわれないように、これまでの生活環境や支援内容などの情報を提供し、きめ細かい連携を心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望を聞き、日々の生活支援に役立てている。また、本人の表情等をよく観察して、一人ひとりの要望にできるだけそうように心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴・生活環境等の把握に努め、サービスに反映し、ホームでの生活が有意義で楽しくなるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、行動や小さな動作から、本人の全体像の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンス・申し送り等によりその人にあつたケアを検討している。また、家族の希望・情報を元にその時に必要とされる介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを作成し、水分量、食事、排泄等身体状態を記録して全職員で共有し、実践や計画のみなおしに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望・要望に応じ通院や送迎等の必要な支援が行えるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや教育機関等と協力しながら豊かで楽しい暮らしができるよう支援している。地域の方々と交流を持ち、心身共に豊かな生活ができるよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の医療機関と連携をとりながら、必要に応じた病院受診を受けられるように支援している。また必要時に往診・受診ができるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体の医療法人の看護師が定期的に来訪して入居者の不安や身体状況の相談や助言を行って持っている。変化に気づいた時は看護師に報告し、適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は利用者の情報を提供し家族や本人が安心して医療が受けられ、早期退院できるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関する指針を定め、事業所が対応できるケアについて説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所での急変事・事故発生時の対応についての研修を行っている。また、対応マニュアルを掲示して実践できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域消防団員の指導のもと、防災訓練を行って利用者がスムーズに非難できるようにしている。また運営推進会議等で地域の方に参加していただけるようお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時も、まず本人の気持ちを大切に考えてさりげないケアを心がけ、自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を聞き・意思表示のできない方は表情を読み取りできる限り本人の思いにそうように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のタイムスケジュールのもと、利用者本人が自由で望むペースに合わせた生活ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは、基本的に本人の意向で決めており、職員は見守りや支援が必要な時に支援している。しかし自己決定が困難な利用者には、職員と一緒に考えて、本人の気持ちにそった支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるような家庭的な雰囲気づくりを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立のもと、調理を行い一人ひとりの身体状態に応じた水分摂取・栄養が摂れるよう工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがいや義歯洗浄等、清潔保持に努め、一人ひとりの習慣や意向を踏まえ、確実にできるように支援している。また口腔内清潔に努め誤嚥性肺炎の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の自尊心を傷つけないよう排泄観察チェックを行い全職員で共有し、トイレ誘導を行えるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	柔軟な繊維性に富む新鮮な野菜、果物及び水分補給を行うと共に、個々の生活リズムを崩すことなく、一定の時間に排泄指導を行うと共に、腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	不安が過大にならないよう優しく、くつろげる入浴を提供できるように努めている。また入浴者の希望があれば毎日の入浴が行えるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また、一人ひとりの体調や表情、希望を考慮して、ゆっくり休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、内容が把握できるようにしている。薬の変更時は主治医・看護師からそのつど説明を受け、誤嚥が無いように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりに即した事を自身の能力に応じた役割を職員と共に行い施設での楽しみを見いだせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩や、地域の季節ごとの行事への参加及び、日用品の購入等の外出の機会をつくり支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持については家族と相談し、本人の安心感や満足のためお金を持っている方もいる。買い物に行く時は支払いができるような工夫をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話をしたり、家族より手紙電話を頂けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前に草木を植え、花を飾り季節を感じてもらっている。光の庶光、窓の外の景色等が眺め季節を感じ生活していただけるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	植木・テレビやテーブルセット等を置き自由にテレビを見たり、家族や他の入居者と談話したりくつろげるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使い慣れた家具、また、仏壇を置き毎日ご先祖さんに手を合わせるなど、その人にあった居心地の良い部屋づくりができるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリー仕様となっており、心身に心配な方や車椅子の方も安心して利用できるよう、また、トイレ・入浴が安心して利用できる生活環境となっている。		